

② [1] 登場

…人間について and 絶対的、客観的 (J) (ジャンプ)

∴ B.C. 5 C 末、アテネ衰退 (衆愚政治) へ

cf. ペロポネソス戦争に敗れる

(1) [2] の態度

「愛知」→フィロソフイー「哲学」

1 「[3]」 (の自覚がスタート)

…「私は自分が、善や美の真理 (そのもの) を
知ってはいないということを知っている」

←「ソクラテスにまさる知者はいない」(神託) をソクラテスが解釈

∴「[4]を知れ」ということ

2 [5] への配慮 (not 金とか地位だけに配慮)

[6]

…青年に多大な影響

3 [7] 法 (問答法・ディアレクティケー)

→ダイアローグ dialogue 「対話」

cf. [8] 術 (助産術) のたとえ

∴無知を自覚させ、真の知を生み出させる

もともと、自分の中にある

←[9] (エイロネイア)

→アイロニー irony 「皮肉」

…無知のふりをして問答し、相手に無知を自覚させるソクラテスの論法

(2) [10] 生きる 比: うまく生きる

1 [11] 合一 cf. 「[12]を知れば、それを行うことができる」

「道徳」(とは何か)

←[13] 主義…感性よりも知性を重視する哲学の立場

2 [14] 合一…言動一致

cf. 毒杯を仰いで自死←「悪法もまた法なり」

(『ソクラテスの弁明』、『クリトン』<プラトン著>)

3 [15] 合一 (福德一致) cf. 「真の幸福とは、道徳的に生きること」

MEMO etc.